



平成 27 年 10 月 7 日

各 位

会社名 サン電子株式会社
代表者名 代表取締役社長 山口 正則
(コード番号 6736)
問合せ先 取締役兼執行役員 山本 泰
経 理 部 長
電 話 0587-55-2201

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 5 月 15 日に公表しました業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

1. 平成28年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	12,000	400	400	250	11円18銭
今回修正予想(B)	11,400	100	0	80	3円58銭
増減額(B-A)	△600	△300	△400	△170	—
増減率(%)	△5.0	△75.0	△100.0	△68.0	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	12,557	1,213	1,302	1,053	47円96銭

2. 平成28年3月期連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	27,500	2,700	2,700	2,000	89円48銭
今回修正予想(B)	24,000	600	400	400	17円90銭
増減額(B-A)	△3,500	△2,100	△2,300	△1,600	—
増減率(%)	△12.7	△77.8	△85.2	△80.0	—
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	27,347	2,284	2,052	1,497	67円77銭

3. 修正の理由

売上高について

モバイルデータソリューション事業において、主要市場である北米については、モバイルライフサイクル事業は、引き続き高いシェアを継続しており、ほぼ計画通り順調に推移しておりますが、フォレンジック事業については、新製品及び新サービスの市場投入が当初見込みから遅れたこと等の影響により、当初計画を下回る見込みとなりました。

また、その他の地域につきましては、南米は、モバイルライフサイクル事業及びフォレンジック事業共に順調に推移し、通期でも当初計画を上回る見込みですが、それ以外のアジア及びヨーロッパ等につきましては、販売

子会社設立の遅延、販売・サポート体制の構築の遅れ等の影響から、モバイルライフサイクル事業及びフォレンジック事業共に、当初見込んでいたスピードでの受注獲得が十分に進まず、当初計画を下回る見込みとなりました。これらの結果、第2四半期(累計)及び通期の連結売上高は当初計画を下回る見込みとなりました。

なお、このような一時的な影響で売上が低調に推移しましたが、事業を取り巻く基礎的な環境は、モバイルフォレンジック市場が20%程度の成長を見込め、また世界的な携帯機器の普及数や機能の進化に伴う利便性の向上により携帯端末のデータの価値が増加していることを鑑みると、そのモバイルデータを扱い、ソリューションを提供する当事業の成長は今後も続くと考えております。

このような背景から、上述の新製品・新サービスの遅れによる販売の減少は、翌期以後においては回復すると見込んでおります。また、アジア及びヨーロッパ市場での販売・サポート体制につきましても、現状において整備が進んでおり、翌期以後は確実に需要を取り込む体制ができる見込みであります。

各利益について

売上高の減少率に対して、利益の減少率が高い要因としましては、売上総利益率が高い製品・サービスを扱うモバイルデータソリューション事業について、売上高は計画を下回りましたが、より高度なサービスを展開しシェア拡大を図るため、新製品及び新サービスに対するマーケティング及び開発等の先行投資を抑えることなく、ほぼ計画通りに推移していること、及び、その他の事業につきまして、M2M事業の更なる事業拡大及び新規事業に係る先行投資を積極的に行っているため開発費が計画を上回ったことが主要因となります。更に、Bacsoft Ltd.(連結子会社:イスラエル国)を下期から連結子会社化することに伴い、下期からのれん償却費を約100百万円計上することも重なり、各利益につきましては、第2四半期(累計)及び通期とも、当初計画を大幅に下回る見込みとなりました。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。業績予想には様々な不確定要素が含まれており、実際の業績は、予想数値と大幅に異なる可能性があります。

以上